

## 日本オリエント学会第59回大会プログラム

2017年10月28日(土)・29日(日)

会場：東京大学本郷キャンパス法文1・2号館

### 第1日 10月28日(土) 14:00～20:00

公開講演会・学会奨励賞授与式

会場：法文2号館1番大教室

13:30 開場

14:00～14:10 開会挨拶

14:10～17:00 第318回公開講演会「唯一神教における法と伝承」

第1講演：市川裕（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）

「ユダヤ教の法と伝承-タルムードはなにを議論しているのか-」

第2講演：柳橋博之（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）

「イスラーム法とハディース（預言者伝承）」

17:10～17:40 第39回日本オリエント学会奨励賞授与式

18:00～20:00 懇親会（会場：医学系研究科教育研究棟13階カポ・ペリカーノ）

### 第2日 10月29日(日) 9:30～16:30

研究発表会

会場：法文1号館112、113、212、214、215、216教室（口頭発表）

217、219教室（ポスター発表：コアタイム [12:50～13:20]）

主催 日本オリエント学会

10月29日(日) 研究発表(それぞれの発表は20分、質疑応答は5分をお願いいたします)

第1部会 112教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	渡辺 和子	『ギルガメシュ叙事詩』(標準版)の主題を再考する
2	10:00-10:25	山田 雅道	<i>qubūru</i> 考: エマルにおける祖先崇拝の様相
3	10:30-10:55	山田 重郎	テル・タバン出土イツイ・スムアビ書簡にみる前18世紀後半のタバトゥム
4	11:05-11:30	高橋 洋成・ 永井 正勝	古代エジプト語とアッカド語におけるTense-Aspect-Moodの対照研究: 対訳資料に出現する動詞形の記述
5	11:35-12:00	細田 あや子	太陽神をめぐる儀礼と神像制作
	12:50-13:20		昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	青島 忠一朗	新アッシリア時代の王碑文における神々と王との関係
7	14:00-14:25	江原 聡子	新バビロニア王ナボニドス時代のシン崇拝
8	14:30-14:55	山本 孟	ヒッタイトの支配領域と境界について
9	15:05-15:30	佐久間 保彦	ヒッタイトの占い文書の概観と分類
10	15:35-16:00	杉江 拓磨	ダニエル書4章のネブカドネツァル王の狂気について
11	16:05-16:30	竹内 茂夫	ダニエル書に現れる「立琴」を表すケティヴ* <i>qitārōs</i> /* <i>qitārōs</i> から ケレ <i>qatrōs</i> への音変化

第2部会 113教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	西秋 良宏・ オタバク・アリフジャノフ	ウズベキスタン、テシク・タシュ洞窟出土の中期旧石器時代石器群
2	10:00-10:25	前田 修	西アジア先史時代の黒曜石交易
3	10:30-10:55	小高 敬寛・ オリフィア・ニウエンハウゼ・ シモネ・ミュール	イラク・クルディスタン地域、シャフリゾール平原の前6千年前後
4	11:05-11:30	赤司 千恵・ ファルバルト・キエフ・ 丹野 研一・ 西秋 良宏	南コーカサスにおける初期農耕:出土植物データからみた研究の現状
5	11:35-12:00	千本 真生	黒海北西岸域におけるウサトヴォ文化の縄目文土器
	12:50-13:20		昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	小泉 龍人	南メソポタミアの都市遺跡の計画性と現状:川を意識した軸線
7	14:00-14:25	吹田 浩・ アフト <sup>レ</sup> ・シュエイグ <sup>レ</sup> ・ ア <sup>レ</sup> デル <sup>レ</sup> ・アカリシュ <sup>レ</sup> ・ マイサ <sup>レ</sup> ・マンズール <sup>レ</sup> ・ 伊藤 淳志・ 中村 吉伸・ 鶴田 浩章・ 安室 喜弘・ サルマン <sup>レ</sup> ・アル <sup>レ</sup> ・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究
8	14:30-14:55	安倍 雅史・ 後藤 健・ 西藤 清秀・ 上杉 彰紀・ 堀岡 晴美・ 原田 怜	バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第3次調査の報告
9	15:05-15:30	西山 伸一	アッシリア帝国東部における物質文化と地方統治形態: Yasin Tepe Archaeological Projectの成果から
10	15:35-16:00	渡辺 千香子・ J. ヲ <sup>レ</sup> トニ <sup>レ</sup>	ティル・トゥーバの戦い:浮彫りと文献からの考察
11	16:05-16:30	四角 隆二	イラン北部における鉄製利器受容期の様相: バイメタル剣の製作技法の検討から

第3部会

215教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	肥後 時尚	古代エジプトの「二道の書」におけるマアト
2	10:00-10:25	中野 智章	エジプト初期王朝時代の王の墓碑について
3	10:30-10:55	矢澤 健・ 吉村 作治	エジプト・ダハシュール北遺跡の第13王朝
4	11:05-11:30	近藤 二郎	ルクソール西岸、アル=コーカ地区出土の葬送用コーンについて
5	11:35-12:00	河合 望	エジプト北サッカラにおける新王国時代の墓地： 2017年の調査を中心に
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	竹野内 恵太	エジプト初期王朝時代の石製容器製作のプロセスと技法選択
7	14:00-14:25	高橋 寿光	古代エジプト、青色彩文土器の製作技術と生産について
8	14:30-14:55	福田 莉紗	ビーズネットの型式学的研究
9	15:05-15:30	田澤 恵子	古代エジプトのウシェブティ製作に関する一考察： Campbell Tomb出土のウシェブティをめぐって
10	15:35-16:00	南澤 武蔵	古代エジプトのファイアンス製リングの製作について： 高校生による復元製作を目指す中で見えてきたこと
11	16:05-16:30	安岡 義文	古代エジプトの家具のデザイン研究：гент・デザイン博物館アーカイブ

第4部会

216教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	土居 通正	ミケーネ諸宮殿崩壊期キプロス出土の在り地と搬入土器の動物文装飾から： 近年の知見を加えて
2	10:00-10:25	長尾 琢磨	パレスチナ地域におけるロクリ墓の変遷：エルサレムの事例から
3	10:30-10:55	坂本 翼	古代末期スーダンにおけるキリスト教の浸透過程： 物質文化研究の観点から
4	11:05-11:30	原田 怜	ヒストリックカイロにみるエジプトの文化遺産保護制度の課題
5	11:35-12:00	内記 理	ガンダーラ地方仏教寺院遺跡出土浮彫画像帯の組み合わせについて
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	宮下 佐江子	日本に将来されたパルミラ出土漢代絹織物について
7	14:00-14:25	津村 眞輝子	北シリア、ユーフラテス川中流域のローマ・ビザンツ時代の埋葬施設： 出土ランプからみた特徴

企画セッション

テーマ「文化変容の中のアイデンティティ：フェニキアの事例を中心に」（企画代表：江添 誠）

8	14:30-14:55	佐藤 育子	図像表現にみるフェニキアの宗教の発展と変容
9	15:05-15:30	青木 真兵	新ポエニ語碑文からみる西地中海世界の変容
10	15:35-16:00	江添 誠	ティルスとガダラ：トランス・ヨルダン地域におけるフェニキアの表出
11	16:05-16:30		コメント・討論(コメンテーター：小野塚 拓造)

第5部会

214教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	立町 健悟	初期ユダヤペルシア語の法体系について
2	10:00-10:25	バグマトフ・アリジェル	ムグ文書に見られる諸問題
3	10:30-10:55	水上 遼	12-14世紀における「イマームの美德の書」編纂と イラクの十二イマーム派ウラマーの戦略的執筆活動
4	11:05-11:30	渡部 良子	13-14世紀モンゴル支配期イランの財務文書
5	11:35-12:00	杉山 雅樹	ティムール朝末期のヌールバフシーヤ： 内部史料と外部史料の比較を通じて
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	本間 美紀	ティムール朝ヘラート派絵画における中国花鳥画の受容
7	14:00-14:25	徳永 佳晃	20世紀前半のイランにおける予算議決制度の確立
8	14:30-14:55	勝本 英明	オスマン帝国第二次立憲政期における実業教育思想：『教師 <i>Muallim</i> 』誌と 『教育雑誌 <i>Tedrisat Mecmuası</i> 』の論説の分析を中心に
9	15:05-15:30	松本 奈穂子	19世紀末から20世紀初頭イスタンブルにおける音楽活動
10	15:35-16:00	秋葉 淳	オスマン帝国史におけるエゴ・ドキュメント研究の展開と展望

第6部会

212教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	鈴木 英明	20世紀前半ペルシア湾岸における奴隷解放調書の資料性の検討
2	10:00-10:25	福田 安志	20世紀初めのオマーンにおけるイギリス支配の確立過程とインド
3	10:30-10:55	榮谷 温子	クルアーン112章1節の人称代名詞 <i>huwa</i> の解釈について
4	11:05-11:30	黒田 彩加	エジプトにおけるイスラーム主義思想の一展開： ターリク・ビシュリーの立論における法と共同体
5	11:35-12:00	村山 木乃実	アブー・ザッル像を通してみるアリー・シャリーアティー(1933-1977)の「アリーのシーア派主義」をめぐって
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	法貴 遊	長期的に人間のふるまいを導く技術としての医学： カイロ・ゲニザの医学文書の観点から
7	14:00-14:25	矢口 直英	中世イスラーム社会の医療倫理
8	14:30-14:55	石川 喜堂	アッタル『鳥の言葉』における「血」を用いた表現方法について
9	15:05-15:30	相樂 悠太	イブン・アラビー思想における魂 (nafs) の哲学的三分： 「理知的魂」・「動物的魂」・「植物的魂」
10	15:35-16:00	澤井 真	イブン・アラビー学派初期における霊的カリフ(権威)論の展開について

ポスター発表 219教室

	発表者	発表題目
P1	柏木 裕之・ 山田 綾乃	クフ王第2の船 甲板の配置と構法
P2	永井 正勝	オープンデータと古代オリエントの文書研究： 聖刻文字版「平和条約碑文」のデータ公開の意義
P3	高橋 寿光	古代エジプト、新王国時代における土器の再利用について
P4	坂本 翼	イシス信仰の変容と展開：所謂「イシスの花」の再評価
P5	千本 真生	南ブルガリアの前期青銅器時代編年：デャドヴォ遺跡の検討を中心に
P6	中野 智章・ 小野塚拓造・河合望・吹田浩・ 田澤恵子・藤井信之・和田浩一郎	日本の古代エジプト資料に関する情報の把握と発信
P7	河合 望・ 岡田靖・栗本康司・松島朝秀	トゥトアंकアメン王墓出土の儀式用寝台および二輪馬車の調査研究

